

SoundPLAN Verion 7.0 ASJ RTN-Model 2008の導入状況

株式会社小野測器

分類	No.	仕様	備考	導入状況
1 音源 特性	1-1	パワーレベル	2車種、および4車種分類による定常、非定常、加速、減速(料金所付近、連結部付近、信号交差点付近)	○
	1-2	排水性路面に関する補正	一般道路、自動車専用道路別、経年変化含む	○
	1-3	縦断勾配に関する補正	入力された座標を基に自動算出	○
	1-4	指向性に関する補正	回折時はエッジに入射する角度を用いて補正値を計算	○
	1-5	自動車騒音の周波数ごとの計算方法	現在、工業騒音にて対応可能	▲
	1-6	高架構造物音		○
2 伝搬 計算	2-1	回折に関する補正の基本式		○
	2-2	低層遮音壁		○
	2-3	遮音壁の透過	多重回折経路にも適用	○
	2-4	築堤	建物・防音壁・地面の起伏による遮蔽を自動認識し、側方回折を含めて計算することが可能(ただし、「築堤」では側方回折は含まれません)	○
	2-5	矩形断面を持つ障壁	建物と防音壁、および築堤と防音壁の組合せによる多重回折は二重回折として計算	○
	2-6	二重遮音壁		○
	2-7	三重遮音壁		○
	2-8	先端改良型・張り出し型遮音壁	前後に直壁防音壁がある場合、その仮想高さを多重回折において使用	○
	2-9	地表面効果による減衰に関する補正		○
	2-10	道路沿道の複合した地表面効果の計算方法(ASJ RTN-Model 2008 参考文献より)	計算時にどちらかを選択可能	○
	2-11	反射音(壁面)	矩形反射面での補正量、反射回数の設定は99回まで可能	○
	2-12	反射面の吸音に関する補正		○
	2-13	空気の音響吸収による減衰の補正		○
	2-14	風の影響による騒音レベルの変動幅		○
	2-15	円筒座標系による最短経路を用いた回折計算		△
3 特殊部	3-1	トンネル		○
	3-2	掘割・半地下部	地形を作成し、両側に防音壁を作成することにより対応可、反射回数設定は99回まで可能	○
	3-3	掘割・半地下部 - 指向性点音源モデルによる簡易計算法		▲
	3-4	高架裏面からの反射	スリット法、散乱反射法(裏面・地面反射なし)	○
4 建物・建 物群背後 の予測計 算法	4-1	単独建物背後における騒音の予測		○
	4-2	上方及び側方の回折音の寄与を合成する方法	反射、多重回折(側方も含む)等を組み合わせ、建て込んだ市街地の計算も可能	○
	4-3	建物の側壁面による反射を考慮した1パスの方法		○
	4-4	建物群背後における騒音の予測		○
	4-5	建物群背後における評価区間の平均的なL _{Aeq} の予測		×
参考資料3		単純条件下でのL _{Aeq,T} の簡易計算法		▲

- : 導入済み
△: 後日導入予定
▲: 導入未定
×: 導入いたしません